

同友しずおか

2025

11

VOL.564

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」



私の逸品

加商(株)

明治からの歴史ある
登録商標の看板



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡市東区藤原町 静岡工業ビル4F FAX/054-255-7120 Email/doyu@shizuoka.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1067名

氏名	社名・事業	所属支部
さの ゆき え 佐野 幸江	ライフサプリプラス(株) 療育整体、放課後等デイサービス、製作業	富士宮
すが わら だい すけ 菅原 大介	菅原商会 中古トラック、重機、自動車の買取販売	富士宮
おお くぼ よし のぶ 大窪 佳信	(株)真奈武 Net を利用して着物をレンタル、写真スタジオ、着付け	静 岡
こ ばやし な つ こ 小林 奈津子	(合)nanoha 介護	静 岡
すぎ うら けん た 杉浦 健太	社会保険労務士法人ペルダ・コンサルティング 労務手続、給与計算、就業規則作成、研修、労務相談、人事制度作成、採用定着支援	静 岡

名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部
かざ ま まさ たか 風間 雅貴	(株)横山事務器 文具、事務機器販売、印刷、通販	静 岡
いわ ま かつ とし 岩間 勝利	共和建設(株) 土木工事業、舗装工事業、港湾工事業、とび土木工事業	榛 南

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



明治からの歴史ある 登録商標の看板

加商(株) (富士支部)

代表取締役 加藤 愛一郎氏



特約店の看板

明治24年設立の歴史ある企業の 4代目

今回は加商(株)の代表取締役である加藤愛一郎氏の私の逸品を取材しました。同社は明治24年設立の歴史ある会社であり、業務用食品・冷凍食品の卸売業を行っています。加藤氏は4代目の代表取締役社長です。

加藤氏が同友会に入会したきっかけは、代表取締役になり経営の勉強をしたいと考えていたときに、同級生である遠藤正人氏(株)富士トレーディング・



会社前にて加藤氏

富士支部)に紹介されたことでした。いろいろな組織に携わっている加藤氏に同友会の魅力を知ったところ「何よりも人間らしく、飾らないところが良い。同じ社長として年齢関係なくみんな平等に接してくれるところが同友会の魅力」と話してくれました。

「私の逸品」は特約店の櫓の看板

加藤氏の「私の逸品」は、同氏が生まれた時からあたりまえのように掲げられている特約店の看板で、純正菜種油、フジ製

糖(株)、日清製粉(株)のものがあります。明治時代に施行された商標登録制度のもと卸売業者が信用を守るために掲げていた看板で、どれも櫓の板でできており、割れもひびもなく、よく手入れされた素晴らしいものでした。物心ついた時からあったため当たり前のように感じていたのですが、大学を卒業して他店で修業し会社を継ぐときに、自社の歴史を物語るこの看板の偉大さに気付いたと言います。

お客様のニーズの変化に 合わせた商品販売

加藤氏は今後の自社について、時代とともに取扱品目を吟味して追加しながら、得意先である病院、老人介護施設、学校給食、産業給食、高速SA・PA、スーパー、製菓・製パン製造業、ホテル、レストラン、食品問屋、その他リゾート娯楽施設等と良い関係を保ちつつ、お客様のニーズに合わせた販売を心がけていきたいと語ります。取り扱う品目は多岐にわたり、業務量もかなりのものです。それでも、



櫓の板でつくられた純正菜種油の看板

加商(株)

〒416-0946 富士市浅間本町2-28

TEL: 0545-52-2547

URL: <https://kasyo.jimdosite.com/>

設立 1891年4月

社員数 10名

入会年月 2013年4月

事業内容 業務用食品・冷凍食品卸、
酒類・穀物類卸売

取材・記事・渡邊正仁氏
(南丸之工務店・富士支部)

時代のニーズに合わせて柔軟に業務形態を変えながら、創業100年を超える歴史ある会社を受け継ぐ決意をした加藤氏に敬意を表し会社を後にしました。

会員訪問記

「超える」ことを恐れず、
新たな挑戦を続ける二代目社長

(株)ダイシン

代表取締役社長 大石 親嗣氏（榛南支部）



(株)ダイシン外観

想いを継承し二代目に就任

牧之原市にある(株)ダイシンは、自動車用小型部品の成形・組立を中心に、成形から組付・測定・検査・梱包までを自社一貫体制で行うものづくり企業です。

社名の「ダイシン」は、「大石の“大”と「親嗣の“親”」を組み合わせで名付けられたとのこと、まさに創業者の父の想いがこもった社名です。幼少のころから会社を継ぐ運命を感じていたという大石氏ですが「親の敷いたレールをそのまま歩くのは嫌だった」と語ります。高校卒業後は父親を説得し音楽専門学校へ進学。CD制作やライブ活動に打ち込むなど、音楽の道を志していました。

しかし、父のように慕っていた当時の工場長に誘われる形で2003年に入社を決意。創業者である父の後を継ぎ、2014年に二代目として社長に就任されました。

父の枠を超え、
新たな柱づくりへ

「二代目である自分の役割は、『父の枠を超えること』自動車部品以外への展開」だと思っている」と大石氏は語ります。現在のダイシンは事業のほぼ100%を自動車関連の仕事が占めています。そこに新たな柱を築こうと、既存の技術を活かした新分野への

挑戦を進めています。

そのひとつとして、地元・牧之原で廃棄される茶葉を活用したバイオマスプラスチック製の植木鉢を開発したことがあります。庭に直接植えると約5年で自然分解し土に還るという特性を持たせ、環境負荷を軽減する「エコな植木鉢」として注目を集めました。また、プラスチック成形技術を応用し「富山県の企業が開発した魚をさばく専用包丁の鞘（さや）」の製造にも携わるなど、他業種との連携も積極的に行っています。

さらに今年からフィルター部門を新設し、9月より新工場での生産を開始しました。これらの取り組みには、「小さな仕事であっても、次の柱を育てるための大事な種を蒔く」という大石氏の信念が込められています。

同友会の学びは
イノベーションの源泉

大石氏が静岡同友会に入会したのは2023年。きっかけは、山本明秀氏（やまもと 商事・榛南支部）の紹介で例会にオブザーバー参加したことでした。例会で経営に対して真剣に語り合う会員の姿に強く心を動かされ、「今の自分に必要な学びの場だ」と感じて入会を決めたといえます。「異業種や地域をまたいだ交流は、イノベーションの源泉です。同友会の



大石氏

仲間たちの考え方や行動から多くの刺激をもらい、会社づくりや人づくりのヒントを得ています」と大石氏。これからも地域に根ざしたものづくり企業として、そして挑戦し続ける経営者として、(株)ダイシンの新たな歴史を切り拓いていくことでしょう。

取材・記事：中村 秀和氏
(中村醤油(株)・榛南支部)

(株)ダイシン

〒421-0403 牧之原市中1346-1

TEL：0548-22-4104

URL：http://daishin-inc.com

設立 1983年10月

社員数 49名（うちパート42名）

入会年月 2023年 4月

事業内容 小型自動車部品の成形、
組み立て

会員訪問記

「おせっかいご」がつなぐ、地域と働く力

(有)一筋運輸

代表取締役 松村英雄氏（志太支部）



松村氏（左から2人目）と取材陣

利益度外視で拡大した時代
柳屋本店の配送業務を受託して

2トン車3台で始まった(有)一筋運輸は、昭和58年に法人化して以降、地域の物流を支える企業として歩

みを続けてきました。現在は社員32名（うちパート5名）、車両22台を保有し、4トン車を中心に大型から軽貨物まで多様な輸送サービスを展開しています。柳屋本店での仕事を通じて佐川急便との縁が生まれ、業務を拡大し、佐川急便の宅配事業の大半を請け負い、一時は300名余の社員を擁する規模に拡大しました。アパレル系の仕事をしていた松村英雄氏が父の会社に入ったのは平成2年、同社が業容拡大している真ただ中でした。トラック運輸業務からスタートしましたが、社長就任まで経営に携わることには無かったとい

不採算事業の整理と新規事業の開発

平成15年、35歳で代表に就任した松村氏は、就任直後から経営改革に取り組みました。「売上よりも利益を重視する」方針へと転換し、不採算部門の整理や効率化を進める一方で、新たな事業の柱を模索しました。その中で誕生したのが、介護離職者の再就労を支援するプラットフォーム「おせっかいご」です。

松村氏は「高齢化の進行とともに、家族の介護を理由に職を離れる人が増えています。『おせっかいご』は、介護施設の情報提供と求人マッチングを組み合わせたオンラインプラットフォームです。年間掲載料は低額に抑え、施設・企業・求職者が気軽に参加で

きる仕組みを整えました。介護経験を持つ人が、地域の中で再び働ける場をつくりたいという想いが『おせっかいご』を誕生させました」と語ります。単なるマッチングサイトにとどまらず、地域課題をビジネスの力で解決する社会的事業として、焼津市など行政からも注目を集めているそうです。

地域経済と福祉をつなぐプラットフォーム

『おせっかいご』は介護で困る人をなくしたいという想いがきっかけですが、それにより、介護離職も防げますし、施設は高額な紹介料を支払う必要もなくなります。そんな活動に共感してくれる方が、同友会にはたくさんいらっしゃる」と松葉秀介氏（松葉倉庫(株)・志太支部）から聞いて、入会しました。



おせっかいごインスタ サイトトップイメージ



おせっかいごパンフ

(有)一筋運輸

〒421-0212 焼津市利右衛門1049-4

TEL：054-622-5576

URL：https://hitosuji.co.jp/

設立 1983年10月

社員数 32名（うちパート5名）

入会年月 2025年4月

事業内容 運送業、宅配集配業、おせっかいご事業

取材・記事：村松繁氏
（アイマーク(株)・志太支部）
大石八治氏
（株）ロジネットサポート・志太支部）
撮影：赤堀昌也氏
（akgm&co.・志太支部）

と松村氏。入会してから地道に『おせっかいご』を各市に広げていくとアピールし続けています。物流という枠を超え、人と地域をつなぐ「おせっかいな力」こそ、一筋運輸の原動力。松村氏の挑戦は、地域企業と福祉を結ぶ新しい可能性を示しています。この活動が焼津市から全国に広がっていくと、取材陣も熱い想いを共有した取材でした。

公正取引委員会との意見交換会

適正な価格転嫁の推進にむけて

10月2日(木) 同友会会議室

本年も公正取引委員会との意見交換会を開催し、松葉代表理事をはじめ正副代表理事と事務局長ら7名が同席しました。当日は同委員会事務局の中部事務所総務管理官から、「適切な価格転嫁の実現にむけた取組み」について公正取引委員会の活動を紹介頂きました。

2023年度の国の調査において原材料価格やエネルギーコストと比べ、労務費の転嫁が進んでいない結果をふまえ、内閣官房と公正取引委員会は労務費転嫁交渉指針を公表。その指針の中では、発注者が採るべき行動として、本社や経営トップが関与すること、受注者との定期的な協議の実施、説明・資料を受注者側に求める場合は公表



資料とし、受注者が公表資料を用いて提示して希望する価格については合理的な根拠のあるものとして尊重すること等が述べられています。受注者として採るべき行動としては、相談窓口の活用(行政、支援機関等)、公表資料を用い

た資料の活用、値上げ要請のタイミングの活用が述べられています。

また、2026年1月から施行される下請法改め「取適法(製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払遅延等の防止に関する法律)」についても改正内容の説明がありました。コスト上昇の中で中小受託事業者から価格協議の求めがあったにも関わらず、協議に応じなかったり必要な説明をしなかったり一方的に代金を決めるなどの不当行為の禁止、また手形払いを認めない(電子記録債権、ファクタリングも支払期日までに代金に相当する金銭(手数料含む満額)を得ることが困難であるものについても認めない)などが禁止行為として追加されます。また、適用対象を従来の資本金基準に比べ従業員基準「100人」「300人」が追加されました。「下請」という言葉を使わず、「親事業者」→「委託時事業者」、「下請事業者」→「中小受託事業者」、「下請代金」→「製造委託等代金」等に改正されます。

公正取引委員会では、労務費という理由で価格転嫁の協議テーブルにつかない事業者等に関する情報、を匿名で提供できるWeb上のフォームを設置しています。詳しくは以下QRコードからアクセスするか、「公正取引委員会 労務費の転嫁に関する情報提供」で検索してください。



県共育委員会主催 社員研修を開催

仕事の進め方・報連相力アップ研修

10月17日(金) レイアップ御幸町ビル

4月の合同入社式・若手社員研修に続き毎年10月に開催していた「若手社員フォローアップ研修」。今回より「仕事の進め方・報連相力アップ研修」と名を新たにし、新入社員・若手社員に限らず、仕事上のコミュニケーションの基礎を改めて学びたい方を幅広く対象とした社員研修として開催しました。11社より20名の社員が受講し、申込み企業の社員や会員の見学参加もありました。開会あいさつでは、野川和三共育委員長(株野川商店・榛南支部)より、開催主旨と受講者への期待を伝えました。研修では、講師の須山由佳子氏(有キャリアアップ・浜松支部)から社会人としての心構えや報告・連絡・相談で大切なポイントを伝えました。

また、入社してからこれまでの振り返りを参加者全員が発表する2



参加者・スタッフ集合写真



信頼される社員となるため振り返り共に学びあう

分間スピーチや、グループディスカッションを通してお互いの経験から学びあいました。

参加者からは「相談は能力がないからするものではなく、相談できる人は『相談力』のある人であり、すべての成長・発展に繋がることに気づいた」や「グループワークが頻繁にあり、研修を聞いているだけではなく発言する場面も沢山あったため、積極的に参加できた」などの感想が寄せられました。また、研修中の仲間たちの意見や態度から、刺激や学びに繋がったという声も多くありました。

静岡大学連携講座「中小企業と経営哲学」がスタート！ 会員経営者が生き様や中小企業の魅力を学生に伝える

10月1日より、第18期静岡大学連携講座「中小企業と経営哲学」がスタートしました。中小企業の役割や魅力を知ってもらうとともに、経営者の生き様や経営哲学から学生の今後の人生に役立ててもらうことを目的に2008年より毎年開催している本講座は今年で18年目を迎えます。静岡大学と静岡同友会は2008年に相互協力協定を締結しており、その連携の一環として本講座が開講しました。講義は全15講からなり、毎回異なる会員経営者が登壇、自社事業の特徴や経営に対する考え方、自身の人生について語っています。

第1講

10月1日（水）

日本経済における中小企業の果たす役割と意義、この講義の目的

講師：遠藤 一秀氏
（遠藤科学(株)・静岡支部）



中小企業
白書や経済
産業省等の
データをも
とに、雇用

面、経済面、また地域社会の担い手としても中小企業が地域経済に果たす役割が大きいことを説明しました。また、「社員の幸せ」を経営理念に掲げ、付加価値を極大化し社員に還元することを経営目的とする同社の決算書を一般的な決算書と比較しながら説明。最後に「本講座を通して中小企業経営者の個性にふれ、中小企業へ関心をもつてほしい」と学生に伝えました。

第2講

10月8日（水）

中小企業の社長のリーダーシップとは？
「社長になってみたいと思いませんか？」

講師：古川 徹氏
（株フルカワ・榛南支部）



御前崎市
で給排水衛
生設備工事
などを行う
（株フルカワ）

古川氏は同友会入会后、経営指針を作成するも当時は社員を信

第3講

10月22日（水）

ものづくりの現在と未来
進化のための組織作り

講師：中村 俊哉氏
（株シングウ技研・沼津支部）



沼津市で
金属切削加
工・ワイ
ヤー放電加
工等を行う
（株シングウ技研）

（株シングウ技研。中村氏は属人化しがちな製造業を変えるためトップダウンではない「自律進化型の組織づくり」を進めています。社員が個人目標を設定し、会社を自己実現の場とすることを目指しています。また、高品質が当たり前の今、納期、品質に加え、環境経営、健康経営などの付加価値で他社との差別化をはかっています。学生に「たった一度の人生、チャレンジしてほしい」とメッセージを送りました。

東部4支部合同会議2nd

静岡県東部から静岡県、そして日本を変える！

10月10日（金）
プラサヴェルデ（沼津市）

県組織増強委員会主催で昨年度開催した「スコップとビールの会」をきっかけに2024年度より本企画がスタート。東部（伊東・御殿場・三島・沼津）の4支部長をはじめ各支部からの実行委員で毎月打ち合わせを重ね支部間の交流を深めてきました。沼津での開催となった今回は「聞きたい、経営者のリアル。話したい、学生のホンネ」をテーマに、静岡県東部の人材流出や世代間ギャップを解消する目的で実施。経営者が自身の失敗談を開示し、学生が本音で意見をぶつける双方向の対話を通じて、本質的な信頼関係を築くことを目指しました。

■主催者よりメッセージ

東部4支部合同会議実行委員会 増田隼人氏
（株集客デザイン研究所・三島支部長）

「静岡県中小企業家同友会 東部4支部合同会議2nd」にご参加いただき、誠にありがとうございます。当日は107名（うち学生17名）もの皆様にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。限られた時間の中で、いかに皆様に喜んでいただけるかを考え、試行錯誤を重ねてまいりましたが、メンバーそれぞれの役割を全うすることができました。

「聞きたい、経営者のリアル。話したい、学生のホンネ。」のテーマのもと、活発な対話が行われました。参加者の方からは「経営者のリアルな話が聞けて貴重な経験になった」「学生の生の声・本音が聞けて良かった」といったご感想を多数いただき、まさにテーマを体現する会となりました。今後も、皆様の期待に応えられるよう、より良い企画を立案し、地域社会の発展に貢献してまいりたいと存じます。



オリジナルTシャツを着て 集合写真

11月・12月

DOYU CALENDAR

11月16日(日)～12月15日(月)

11月 17日(月)	第10回全県経営フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM)
19日(水)	県共同求人委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
20日(木) ～21日(金)	第53回青年経営者全国交流会in香川 (13:00 レクザムホールほか)
25日(火)	県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM)
27日(木)	第39回全県経営フォーラム (13:00 ホテルクラウンパレス浜松)
28日(金)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 中同協定時総会in静岡 実行委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
12月 2日(火)	県青年部連絡会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)

4日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
9日(火)	静岡例会 (19:00 静岡ペガサート)
10日(水)	御殿場忘年例会 (19:00 Fujiyama Come Come Town)
11日(木)	伊東例会 (19:00 ひぐらし会館) 浜松忘年例会 (19:00 調整中)
12日(金)	富士宮忘年例会 (19:00 富嶽温泉 ホテル花の湯)
13日(土)	県にじいろ共生委員会 クリスマスバザー (10:00 青葉公園シンボルロード)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



懇親会にて静岡メンバー集合写真

中村俊哉氏(株)シングウ技研・にじいろ共生委員長)

二日目は、高橋竹山の軌跡について、(株)東奥日報社・松林拓司氏のお話を伺いました。竹山が生きた当時は障がいのある人に対しての差別が酷かったのですが、生きていくためにひたすら芸を磨いたそうです。津軽三味線の音色は、青森の熱いおもてなしとともに、深く心に刻まれました。

が印象的でした。
二日目は、高橋竹山の軌跡について、(株)東奥日報社・松林拓司氏のお話を伺いました。竹山が生きた当時は障がいのある人に対しての差別が酷かったのですが、生きていくためにひたすら芸を磨いたそうです。津軽三味線の音色は、青森の熱いおもてなしとともに、深く心に刻まれました。

本州最北端の地に見た、共に生きるみらい

《参加者からの感想をご紹介します！》

第23回障害者問題全国交流会in青森がホテル青森で開催されました。当日は全国から559名、静岡同友会からは11名が参加しました。一日目は5分科会に分かれ、テーマごとに学びを深めました。二日目の記念講演では盲目の津軽三味線奏者 高橋竹山氏の生涯から学び、その後、初代高橋竹山氏の孫弟子にあたる高橋竹春氏による生演奏が行われました。2日間を通して、障害に関わらずすべての人が幸せになる、人を生かす経営の本質を改めて学ぶ場となりました。

第23回障害者問題全国交流会in青森
共に生きるみらいへ、青い森から手を携え、新しい世界へ踏みだそう！
10月9日(木)～10日(金) ホテル青森 ほか 参加者…559名